

揺るぎないファクトとは

近着図書

☆「ニュースは「真実」
なのか」瀬川至朗編著

広く社会文化と公共の利益に貢献したジャーナリストに与えられる、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞。同大賞受賞者らを講師に招いた記念講座の2019年分をまとめた。

講師は全国紙・地方紙の記者、放送局ディレクター、フリージャーナリスト、弁護士ら16人。テーマは旧優

瀬川至朗

早稲田大学出版部

生保護法、森友・加計問題、

日米地位協定、日産ゴーン

事件、震災報道、パナマ文

書、フェイクニュース、知

る権利：など多岐にわたる

が、通底しているのは「ジ

ャーナリズムの現在」を問

いかける姿勢だ。

その意味では、この本は

現時点で日本の頂点に立つ

ジャーナリストらが、自ら

の調査報道で培ったノウハ

ウやテクニク、つまり「個

の力」を伝えると

ともに、その成果

を披露する場であ

る。編著者の瀬川

早稲田大教授（ジ

ャーナリズム研

は「表面的なものではなく、深く追求し、掘り起こした末に得られた、揺るぎないファクト」である。

このファクトについて、

作家で同大賞選考委員であ

る吉岡忍さんは次のように

「定義」する。「記者や製

作者がほんとうに知りたい

と思ったことを取材し、調

べ、そこで手にした事実

に基づいて考えに考えてい

けば、だんだんにわかって

るのは究極の事実、これし

かないという「真実です」

乱暴な言い方をすれば、

ジャーナリストとして「公

正」「公平」「中立」の立

て看板を振りかざしている
うちは「取材や思考が足り
ない」（吉岡さん）という
ことである。現役のジャー
ナリストはもちろん報道を
志す人にとってもズシリと
重い言葉である。

早稲田大学出版部刊、1

800円（税別）。

（斉藤光政）

ニュースは

「真実」なのか

文化

化